広島大学大学院教育学研究科 音楽文化教育学研究紀要 XXV　2013. 3. 22

明治期における白井規矩郎の唱歌遊戯教育観

堀　江　　遥
（本講座大学院博士課程前期在学）

Kikuo Shirai's Viewpoint about Singing-Dancing Education in Meiji Period

Haruka HORIE

Abstract

The purpose of this study is to reveal Kikuo Shirai's viewpoint about Singing-Dancing education by considering his descriptions about Singing-Dancing in his books which was published in Meiji Period. As a result, it was revealed that his perspective of "Play" changed through he turned from music teacher to physical-education teacher. Concretely speaking, it changed from what aimed to develop power of mind and body to what aimed to Physical education. On the other hand, it is said that he continued to have a certain perspective of "Singing". That is, the sings with plays have a part which promotes emotional parts and enriches the value of plays. Shirai combined plays and sings positively, and called for play education suited for children in our country.

1. はじめに

唱歌遊戯とは，遊戯の中でも特に唱歌を伴って身体を動かすもののことを指す。我が国においては，音楽教育創設の中心人物となった伊澤修二（1851-1917）が，明治期にいくつか実践を試みたことに始まった。当初は，外国から輸入されたものがそのままの形で行われていたが，我が国の子どもに適したものを与えるべきであるという声が次第に高まり，その時々の幼児教育界全体の傾向を反映しながら，数多くの唱歌遊戯作品が生み出されることとなった。幼児の身体機能の発達を促し，人格を陶冶する役割をもつことから，主に保育や体育の分野から盛んに研究がなされているが[1]，唱歌を伴った身体活動であるという特質を考えると，音楽教育の観点からも注目すべき分野であるといえよう。特に，我が国の唱歌教育および音楽教育の創始期であった明治期には，主要な保育項目のひとつとして著しい発展をみせた。当時の教育者たちによる唱歌遊戯に関する文献や記述も多数残されている。

中でも，白井規矩郎（1870-1951）[2] は非常に多くの唱歌遊戯作品を残している。明治 21 年から大正 12 年まで，遊戯関連の著作をおよそ 30 冊出版しており，非常に多作であるといえる。白井は当初，音楽専科の教師として教鞭を取っていたが，次第に女子体操に傾倒していくようになり，明治 34 年には日本女子大学の体育教師となった。

このように，白井は音楽教師から体育教師への転向という珍しい経歴をもつ人物であるが，前述したように長年にわたって遊戯に関する著作および作品集を出版している。また，その中には，彼自身によって作曲がなされた作品も多数みられる。自身で作曲も振り付けもどちらも行うことができたこと，作品集としたまとまった著作を多く残していることを考えると，唱歌遊戯の歴史をみる上で，白井による唱歌遊戯を避けて通ることはできないであろう。

そこで本稿では，白井の著作にみられる唱歌遊戯に関する記述の検討を通して，白井の唱歌遊戯教育観を明らかにすることを目的とする。

2. 白井規矩郎の経歴および対象とする著作

白井規矩郎は1870（明治3）年に生まれ，東京音楽学校を卒業したのち，各地の師範学校および東京府常盤小学校に音楽専科の教員として奉職した。その後，1890（明治23）年より体操練習所および東京府高等女学校で遊戯を教えるようになり，明治33年に英国の女子体操書を入手したことをきっかけに，女子体操の研究を始めたという（村山 2000, p. 40）。音楽教師であったころから，唱歌遊戯研究の延長で欧米の女子体操にも興味をもっていたということだが，1902（明治35）年の「自分が女子体操の研究を始ましたのは，つい一昨年から」（白井 1902, p. 44）という記述にあるように，次第に体育教育に強い関心を示すようになっていったことがわかる。白井は，1901（明治34）年4月の日本女子大学創立と同時に，設立者の成瀬仁蔵[3]に招聘されて同大学に奉職した。その後は長きにわたり，体育教師として唱歌遊戯の研究をさらに深め，女子教育に尽力した。

以下の表1は，出版されている白井規矩郎の著作および訳書，編著の一覧である。先述したように，白井が体育教師としての視野を本格的にもち始めたのは明治33年ごろからであると推測できる。したがって，この年を彼の経歴の中でのひとつの区切りと考え，明治33年までと以降に分けて一覧にしている。音楽教師から体育教師への転身を経て，彼の唱歌遊戯教育観がどのように変化したかについても明らかにしたい。なお，本稿では，彼の経歴における明治33年以前と明治33年以降を，それぞれ音楽教師時代，体育教師時代と呼ぶこととする。

表1　白井規矩郎の著作および訳書，編著一覧

明治33年まで		明治33年以降	
出版年	タイトル	出版年	タイトル
1888（明21）	唱歌教授法	1900（明33）	実験女子遊戯教授書
1890（明23）	普通音楽談	1901（明34）	団体競争陸軍遊戯
1893（明26）	簡易進行曲祝祭日用	1902（明35）	新式遊戯体操
1893（明26）	新編小学教授術唱歌科	1903（明36）	新式女子表情体操
1893（明26）	保育遊戯唱歌集	1903（明36）	英国最近こどもの遊戯
1893（明26）	音楽教科書：中等教育	1904（明37）	音楽体操唖鈴体操　第一編
1894（明27）	普通音楽教科書	1904（明37）	日捷軍歌
1897（明30）	新編小学遊戯全書	1904（明37）	女子軍歌
1897（明30）	新編遊戯と唱歌	1905（明38）	唱歌楽譜と遊戯法
1897（明30）	風琴修復及取扱法	1907（明40）	新式欧米美的遊戯
1900（明33）	遊戯唱歌大成：実験詳説	1908（明41）	新選五十進行曲集
		1908（明41）	内外遊戯二百番
		1908（明41）	センチュリー式歩調と行進遊戯
		1908（明41）	花紅葉
		1909（明42）	欧米最新女子運動と遊戯
		1910（明44）	最新教育的体操と遊戯
		1910（明44）	体操と遊戯の時間
		1919（大7）	心身摂養代表的強健法
		1924（大12）	韻律体操と表情遊戯

3. 音楽教師時代の唱歌遊戯教育観

まず，音楽学校を卒業し，各地で音楽教師として教鞭をとっていた頃の唱歌遊戯教育観について検討する。この時期，すなわち明治33年以前の白井の著作の特徴として，学校教育における音楽教授法について書かれたものが多いことが挙げられる。例えば明治21年の『唱歌教授法』は，米国のJ.Curwen著“How to read music”の内容を，初心者にも分かりやすいようにと翻訳したものであり，音名や拍子の種類，各音階，3連符等のリズム形，楽譜の読み方などの音楽の基礎知識を，「唱歌を学ぶ人のため」という観点で説明している。さらに，明治27年の『中等教育音楽教科書』では，前述の基礎事項に加え，crescendoやdecrescendo等強弱に関する説明や，簡単な和声についても述べており，これから音楽を学び始める人の導入としてほしい，としている（白井 1893d, p. 86）。

このように，特に明治20年代の著作には，音楽の基礎知識を与えるためのものが多く，音楽教師とし

て我が国の音楽教育発展のために尽力していたことがうかがえる。しかし次第に,『保育遊戯唱歌集』や『新編小学遊戯全書』のような遊戯に関する著作が多くなっている。特に明治33年の編著『遊戯唱歌大成』には,唱歌を伴う遊戯を含め,膨大な量の遊戯がおさめられている。

これらの著作から,白井の唱歌遊戯教育観を探る上で,まず彼の遊戯論および唱歌論に触れたい。

遊戯論

白井の遊戯に関する記述をまとめると,彼の考える遊戯の目的は「身体の発達」と「精神の充実」,および「社会性の育成」という3点に集約されているといえる。中でも彼が特に強調していたのは,子どもの社会性の育成,すなわち,協同の精神や自他を博愛する心,規律に従う習慣を身に付けるという点であった。単に身体の修練のためだけではなく,子どもが成長して社会の一員となる際の準備として,他人とのかかわり方や社会的ルールについて遊びながら学ぶことができることを重視していたのである(白井1897a, p.6)。

唱歌論

この時期の著作では,白井は唱歌についても多く記述を残している。音楽とは人の心を魅了し勇気を興すものであるため人が音楽を愛するのは天性である,としており,特に唱歌については,特性を涵養するのに欠くことのできないものであると述べている(白井1900a, 緒論)。つまり彼は,学校教育における唱歌の意義を,仲間で一緒に歌うことによって生まれる共同親和観に見出していたようである。そのため,音楽の学習においては,まず唱歌の学習から入るべきであるとしている。

では,遊戯と唱歌が結びついた唱歌遊戯については,どのように考えていたのだろうか。白井は唱歌遊戯に関して,唱歌と遊戯が結びついている点にその重要性を見出している。彼は『遊戯唱歌大成』の諸論において,音楽と遊戯には「徳性を涵養する」という共通の主旨(効果)があり,これらを結びつけることによって,一層その効果を大きくすることができるとし,学校教育における他のどの学科同士よりも密接した関係をもっていると述べている(白井1900a, 緒論)。そして,遊戯は音楽と一緒になることによって,児童の興味関心をより増すことができるということを強調しているのである。
白井は同書で,遊戯を次のように分類している(表2)。

表2　白井規矩郎による遊戯分類

個人的遊戯	運動的	個人で行うもので,全身運動を伴う遊戯。 例)蛙飛び,綱跳び
	静坐的	個人で行うもので,室内で座って行う遊戯。 例)積み木,板並べ,切り絵
集合的遊戯	運動的	集団で行うもので,全身運動を伴う遊戯。 例)進行遊戯,普通遊戯(唱歌遊戯),競争遊戯
	静坐的	集団で行うもので,室内で行う遊戯。 例)囲碁,将棋
雑種遊戯	運動的	個人でも数人でも行うことができ,上記以外のさまざまな種類の遊戯を含む。
	静坐的	

これらの分類のうち,唱歌遊戯を含む集合的運動遊戯に着目したい。彼は,集団で行う遊戯について進行遊戯,競争遊戯,そして唱歌遊戯と細かく分類している。ここで白井が述べている「普通遊戯(唱歌遊戯)」とは,「唱歌の歌詞の趣旨に適した動作をするもの」(白井1900a, 緒論)であり,唱歌ありきで行われるものという点で他とは区別している。一方で,その他の進行遊戯や競争遊戯に関しても「各種の遊戯は可成其方式に適する唱歌を與へ」(白井1900a, p. 9),「唱歌を用ひて可成其詞趣を表す」(白井1900a, p. 17)と述べており,唱歌を伴わせることを勧めている。つまり,同じ「唱歌を伴う遊戯」であっても,①既存の唱歌の歌意を表現するための動作がつけられたもの,②全身の運動や競争を目的とした動作に唱歌を伴わせたもの,という違いがあるのである。

『遊戯唱歌大成』や遊戯作品集の序文等に見られる，遊戯を行う際はなるべくその遊戯に合った唱歌を与えるべきであり，指導者が楽器で演奏する行進曲に合わせて進行させてもよい，という主旨の記述は，動作に唱歌をつけたものに関する提言であると考えられる。そしてこの時期の彼の唱歌遊戯作品には，このタイプが圧倒的に多くみられる。つまり白井は，遊戯の効用をより高めるものとして唱歌をとらえていたといえよう。

4. 体育教師時代の唱歌遊戯教育観

次に，白井が体育教育に興味をもち始めたという明治33年以降の唱歌遊戯教育観について検討する。日本女子大学で体育教師として教鞭を取るようになったこの時期の著作は，体育教育という観点からの遊戯書という特徴をもつ。遊戯に関する理論的説明を主旨とするものではなく，遊戯の実施方法や唱歌の譜例を掲載した「遊戯作品集」の形態をとるものがほとんどとなっており，実際の教育現場で彼が試行した遊戯作品はもちろんのこと，『英國最近こどもの遊戯』や『新式欧米美的遊戯』のように，外国の遊戯作品を翻訳し紹介している著作も多い。

これらの著作の記述を検討した結果，この時期の彼の遊戯論，唱歌論は以下のようにまとめられる。

遊戯論

白井は，遊戯は子どもが先天的に好むものであり，学校教科のひとつとして設置されているのは，他学科と同様に教育的効果があるからだとし，普通教育における遊戯の必要性を主張している（白井 1900b, pp. 1-2）。また，女子にふさわしい遊戯の必要性についても，多くの著書で述べている。女子に適切な遊戯の種類の少なさを嘆き，女子にふさわしい遊戯法の開発が急務であるとした上で，女子遊戯だけでなく，昨今の遊戯教育は既存の限られた種類のものを繰り返し行っているにすぎないと述べ，その停滞を指摘している（白井 1900b, pp. 1-2）。

また，彼は遊戯に対して，身体への直接的な効果と，精神的な充実の両方を求めていたといえる。子どもの遊戯への本能的な興味をふまえ，各種遊戯を適度に配合し，身体の訓練と精神的興味の双方を兼ね備えたものを実施することによって，遊戯の目的を達成しようと試みていたのである。

唱歌論

唱歌に関する記述は，明治33年以前と比較すると少なくなっている。以前のように，唱歌そのものの目的や意義に関する記述はみられなかったが，遊戯に唱歌を伴わせることの重要性については繰り返し述べられていた。唱歌を伴わない遊戯に関しても，教師は何らかの楽器で運動の伴奏を行うべきである，動作の開始の合図等は和弦の演奏がよい，というように，運動に伴う音楽の必要性を挙げている。このように，白井の唱歌論は，主に体育教育としての遊戯に伴うものとして述べられていた。

なお，『唱歌楽譜と遊戯法』においては，小学読本に付けられた既存の唱歌について，音楽的規則に従うことだけに固執していて，自然な感じを欠いていると批判している（白井 1905, p. 1）。このことから，白井は，子どもの自然な本性に適した唱歌を求めていたといえよう。

それでは，体育教師となった白井の唱歌遊戯教育観はどのようなものだったのであろうか。彼は体育教師に転向したのちでも，遊戯は音楽を伴って動作するのが最良の方法である，と一貫して主張している（白井 1902, p.2）。その理由としては，音楽を伴うことによって運動が劇的・暴力的にならず，なおかつ遊戯のもつ美的観念がより心に働きかけることを挙げている（白井 1900b, p. 3）。この時期の彼の著作では，さまざまな種類の遊戯法が記されているが，その多くは実際に音楽を伴うものとなっている。

音楽の中でも特に唱歌を伴わせる場合は，動作を教えるよりも前に唱歌をあらかじめ歌わせ，その歌意をしっかりと了解させることが必要であるとしている（白井 1902, 凡例）。特に女子は天性で唱歌を好むものであり，女子のための遊戯における唱歌の必要性を強調している（白井 1900b, p. 3）。日本女子大学に奉職して以降，彼の女子教育に対する熱意はますます高まっていったとみえ，男子に与える遊戯と女子に与える遊戯は区別しなければならないという言葉は，彼の著作に頻繁に現れる。したがって，この時期の彼の唱歌遊戯教育観は，女子のための体育教育とより密接に関わるものであったといえる。

5. 考察

以上で，白井規矩郎の遊戯観および唱歌観をふまえ，彼の唱歌遊戯教育観について明治33年以前の音楽教師時代とそれ以降の体育教師時代とに分けて概観してきたが，それらを比較し，白井の唱歌遊戯教育観について検討する。

以下の表3は，遊戯に唱歌を伴う意義について，彼の考えをまとめたものである。

表3　白井規矩郎の唱歌遊戯観

音楽教師時代	体育教師時代
唱歌によって，遊戯のもつ「徳性の涵養」という教育的効果をより大きくすることができる。子どもの遊戯に対する興味をひき，心情へより強く働きかける。	音楽の存在によって運動の激しさを抑え，運動に対する興味を喚起する。遊戯のもつ美的観念をより心に働きかけさせるとともに，歌意に対する理解を深める。

音楽教師時代の白井は，身体の発達，精神の充実，社会性の育成を遊戯の目的として掲げていた。これらは，遊戯のもつ教育的効果として，当時の教育界にも広く浸透していたことである。一方でその後の体育教師時代では，国内外のさまざまな遊戯法の紹介，解説という主旨で書かれている著作が多く，それぞれの遊戯や体操の種類によって，その具体的な目的は異なる。種々の遊戯を配合しながら我が国の体育教育に適したものを編み出そうと試行していたともいえる。彼は，音楽教師時代にもっていた遊戯の概念を発展させ，体育教育のために，より運動的性質を帯びた遊戯体操というジャンルに辿り着いたようにも見える。この遊戯観の変化は，彼の関心が体育教育へと移行していったことを示しているといえ，それは経歴をみても明らかである。

そのような彼の遊戯観の変化の中で，唱歌が遊戯に伴うものとして重要な位置を占め続けたことに注目したい。彼が考えていた遊戯に伴う唱歌のもつ役割は，子どもの興味をひき，遊戯の意味を感情により深く訴えることであった。つまり唱歌は，「心情への働きかけを担うもの」であった。今回対象とした彼の著作を検討した結果，彼の唱歌観は，音楽教師時代から体育教師時代への移行を経ても変化していなかった。彼は，身体の発達という点により重きをおくようになったものの，唱歌を結びつけることへの積極的な姿勢をもち続けていたのである。

このように，白井は，明治期における遊戯教育の状況に危機を感じ，外国のものを含めさまざまな種類の遊戯を積極的に世に紹介していく中で，体育教育に傾倒していきながらも，唱歌を始めとする音楽に大きな意義を見出していたといえる。彼の音楽教育，そして体育教育は，女子にふさわしい体育法の開発という観点から，遊戯と普通体操[4]を融合させ，身体の均斉な発達と精神的な楽しさを併せもつ音楽体操の希求へと行き着いたのである。

6. おわりに

本稿では，明治期に活躍した音楽教育者および体育教育者であった白井規矩郎の唱歌遊戯教育観を明らかにすることを目的としたが，今回は彼の著作にみられる記述の検討にとどまった。今後，彼の残した数々の唱歌遊戯作品の検討を通して，本稿で明らかになった唱歌遊戯教育観が，実際の作品にどのように反映されていたかを含め，より深く探っていきたいと考える。

【注】

1) 秋葉（1975），江崎（1982），金本（1986），水野（1991），今井（1992），村山（2000），名須川（2002）らによるものが挙げられる。
2) 白井規矩郎に関する先行研究として，輿水・松本（1972），馬場・石川（1986）らによるものが挙げられる。これらは，体育教育の観点からの白井研究である。
3) 成瀬仁蔵（1858-1919）は，日本女子大学の創設者として知られている。
4) 明治時代，体操伝習所によって行われた体操のことを「普通体操」と呼ぶ。1879（明12）年，教育令が公布され，文部省によって体操伝習所が設置された。アメリカから教員を招いて日本に適した体操の研究と教員養成が行われた。

【引用・参考文献および第一次史料】

・Curwen, J. ／白井規矩郎訳（1888）『唱歌教授法』徴古堂.
・秋葉尋子（1975）「明治初期における唱歌遊戯について」『日本体育学会大会号』第 26 号，p. 122.
・石川悦子・馬場哲雄（1986）「日本女子大学の体育発展に貢献した人々（2）：初代体育教師，白井規矩郎について　その 1」『日本女子大学紀要　家政学部』第 33 号，pp. 189-194.
・石川悦子・馬場哲雄（1987）「日本女子大学の体育発展に貢献した人々（3）：初代体育教師，白井規矩郎について　その 2」『日本女子大学紀要　家政学部』第 34 号，pp. 181-186.
・石川悦子・馬場哲雄（1988）「日本女子大学の体育発展に貢献した人々（4）：初代体育教師，白井規矩郎について　その 3」『日本女子大学紀要　家政学部』第 35 号，pp. 171-177.
・石川悦子・馬場哲雄（1990）「日本女子大学の体育発展に貢献した人々（5）：初代体育教師，白井規矩郎について　その 4」（1991）『日本女子大学紀要　家政学部』第 37 号，pp. 149-154.
・石川悦子・馬場哲雄「日本女子大学の体育発展に貢献した人々（6）：初代体育教師，白井規矩郎について　その 5」『日本女子大学紀要　家政学部』第 38 号，pp. 1-7.
・今井民子・笹森建英（1992）「日本の音楽教育に於ける身体表現のあり方－明治期の唱歌遊戯を中心として；舞踊と音楽の関係についての考察－」『弘前大学教育学部紀要』第 67 号，pp. 45-63.
・江崎公子（1982）「Calisthenic Song について－明治初期の唱歌遊戯研究序説－」『国立音楽大学研究紀要』第 17 号，pp. 37-54.
・バロウ／山田源一郎・白井規矩郎訳（1894）『普通音楽教科書』成美堂.
・金本佳世（1988）「幼児の音楽教材に関する一考察－東基吉の唱歌遊戯論と，滝廉太郎，東クメ編『幼稚園唱歌』を中心として」『武蔵野音楽大学研究紀要』第 20 号，pp. 1-16.
・金本佳世（1986）「幼児音楽教育創始期における『唱歌』及び『唱歌遊戯』についての一考察」『武蔵野音楽大学研究紀要』第 18 号，pp. 1-18.
・輿水はる海・松本千代栄（1972）「明治期遊戯の一考察：白井規矩郎研究：歴史的研究」『日本体育学会大会号』第 23 号，p. 24.
・塩井雨江著／白井規矩郎曲（1904）『女子軍歌』博文館.
・白井規矩郎（1890）『普通音楽談』文学社.
・白井規矩郎（1893a）『新編小学教授術唱歌科』金港堂.
・白井規矩郎（1893b）『音楽教科書：中等教育』大倉書店.
・白井規矩郎（1893c）『保育遊戯唱歌集』敬文堂書店.
・白井規矩郎（1893d）『簡易進行曲祝祭日用』金港堂.
・白井規矩郎（1897a）『新編小学遊戯全書』同文館.
・白井規矩郎（1897b）『新編遊戯と唱歌』同文館.
・白井規矩郎（1900a）『遊戯唱歌大成：實験詳説』同文館.
・白井規矩郎（1900b）『実験女子遊戯教授書』松邑三松堂.
・白井規矩郎（1901a）「英國新式女子体操及び遊戯に付て」『教育時論』第 572 号，pp. 20-22.
・白井規矩郎編（1901c）『団体競争陸軍遊戯』同文館.
・白井規矩郎（1902a）「女子體育實験談」『教育時論』第 602 号，pp. 43-45.
・白井規矩郎（1902b）『新式遊戯体操』同文館.
・白井規矩郎（1903a）『新式女子表情体操』育成会.
・白井規矩郎解説（1903b）『英国最近こどもの遊戯』.
・白井規矩郎編（1904）『音楽体操第一編唖鈴体操』十字屋.
・白井規矩郎（1905）『国定読本唱歌楽譜と遊戯法』文学社.
・白井規矩郎（1906）「體育の効果」『家庭週報』第 65 号，p. 2.
・白井規矩郎（1907）『新式欧米美的遊戯』修文館.
・白井規矩郎編（1908a）『新選五十進行曲集』二松堂.
・白井規矩郎編（1908b）『内外遊戯二百番』博文館.
・白井規矩郎解説（1908c）『センチュリー式歩調と行進遊戯』博文館.

・白井規矩郎・内田粂太郎（1908d）『花紅葉』朝野書店.
・白井規矩郎（1909）『欧米最新女子運動と遊戯』弘道館.
・白井規矩郎（1910a）『最新教育的体操と遊戯』嵩山房.
・白井規矩郎（1910b）『体操と遊戯の時間』啓成社.
・名須川知子（2004）『唱歌遊戯作品における身体表現の変遷』風間書房.
・旗野十一良／白井規矩郎・内田粂太郎作曲（1904）『日捷軍歌』同文館.
・水野恵子（1991）「昭和初期における唱歌遊戯教育について」『愛知県立大学文学部論集, 児童教育科学編』第 40 号, pp. 47-69.
・村山茂代（2000）『明治期ダンスの史的研究－大正 2 年学校体操教授要目成立に至るダンスの導入と展開－』不昧堂.